

早生温州の成熟が進んでいます。
完全着色した果実から減酸を確認し、順次収穫しましょう！

令和 2 年 10 月の気象

令和 2 年 10 月の半旬別の気象を表 1 に示した。平均気温は第 1、第 5、代 6 半旬は平年並み、第 3 半旬は平年より高く、第 2、第 4 半旬は平年より低く推移した。月平均気温は 17.4℃で、平年より 0.5℃、前年より 2.3℃低かった。

降水量は第 2 半旬は平年の 249%と多く、第 4 半旬は平年並み、他は平年よりも少なかった。月合計は 244mm で平年の 98%、昨年の 37%であった。

日照時間は第 2～第 4 半旬は平年より少なく、他は平年よりも多かった。月合計は 122 時間で平年の 89%、前年の 103%であった。

表 1 令和 2 年 10 月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	20.7	20.5	23.1	7	41	59	25	20	41
2	17.5	18.8	21.0	192	77	22	7	20	27
3	19.8	18.6	21.1	9	31	136	14	22	10
4	14.4	17.6	18.7	34	36	121	8	23	4
5	16.8	16.4	17.5	4	28	320	28	23	11
6	15.6	15.9	17.1	0	38	7	40	29	27
平均/計	17.4	17.9	19.7	244	250	662	122	137	119

2 果実及び樹の生育

10 月 30 日における調査園の果実生育状況を表 2 に示した。横径は「興津早生」、「大津 4 号」及び「青島温州」が 3 地区の平均でそれぞれ 6.5cm、7.1cm、7.0cm で、いずれも平年並みであった。

縦径は「興津早生」、「大津 4 号」及び「青島温州」が 3 地区の平均でそれぞれ 5.0cm、4.9cm、5.0cm で、いずれも平年並みであった。

果形指数は、「興津早生」、「大津 4 号」及び「青島温州」が 3 地区の平均でそれぞれ 1.3、1.5、1.4 で、いずれも平年並みであった。

表2 果実の生育（令和2年10月30日）

品 種	調査地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
興津早生	三芳地区	6.8	6.5	6.2	5.1	5.1	4.8	1.3	1.3	1.3
	千倉地区	5.7	6.2	5.6	4.4	4.8	4.4	1.3	1.3	1.3
	暖地園研	6.9	6.7	6.2	5.4	5.2	4.8	1.3	1.3	1.3
	平 均	6.5	6.5	6.0	5.0	5.0	4.7	1.3	1.3	1.3
大津4号	三芳地区	6.9	7.1	6.5	4.9	5.0	4.7	1.4	1.4	1.4
	千倉地区	7.3	7.1	6.4	4.9	4.8	4.7	1.5	1.5	1.4
	暖地園研	7.2	7.4	6.9	4.9	5.0	4.6	1.5	1.5	1.5
	平 均	7.1	7.2	6.6	4.9	4.9	4.7	1.5	1.5	1.4
青島温州	三芳地区	6.9	7.0	6.3	5.0	5.0	4.8	1.4	1.4	1.3
	千倉地区	6.9	7.0	6.6	4.9	4.9	4.9	1.4	1.4	1.3
	暖地園研	7.1	7.2	7.0	5.0	5.0	4.8	1.4	1.4	1.5
	平 均	7.0	7.1	6.6	5.0	5.0	4.8	1.4	1.4	1.4

注1) 「各地点の各品種の値は40果の平均とした
ただし、鳥害、落果等により調査果実を変更した
2) 果形指数は、横径／縦径とした

「興津早生」の果実品質

「興津早生」の果実品質を表3に示した。

着色程度は、3地区の平均で7.1であった。三芳地区及び千倉地区では平年より高く、暖地園研では平年より低かった。また、いずれも着色が遅れた前年より高かった。

糖度は、3地区の平均で9.2であった。いずれも平年並みで、前年より高かった。

酸度は、3地区の平均で0.88であった。三芳地区では平年並みで、前年より高かった。千倉地区では、平年及び前年より低かった。暖地園研では平年より低く前年より高かった。

甘味比は、3地区の平均で11.1であった。三芳地区では平年及び前年より低かった。千倉地区では、平年及び前年より高かった。暖地園研では、平年より高く前年並みであった。

果肉歩合は、3地区の平均で84.5%であった。平年及び前年並みであった。

表3 早生温州「興津早生」の果実品質（令和2年10月30日）

調査地	着色程度 (0~10)			糖 度 (%)			酸 度 (%)			甘味比			果肉歩合 (%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
三芳地区	7.2	6.7	3.7	9.3	9.5	8.7	1.00	0.97	0.63	9.4	10.6	14.1	85.9	81.2	83.4
千倉地区	7.6	7.3	4.9	9.8	9.6	8.6	0.79	1.12	0.94	13.4	8.7	9.2	83.3	82.3	83.0
暖地園研	6.7	7.0	4.3	8.7	8.8	7.3	0.85	1.02	0.75	10.6	9.1	9.8	84.2	82.0	81.3
平 均	7.1	7.0	4.3	9.2	9.3	8.2	0.88	1.03	0.78	11.1	9.5	11.0	84.5	81.8	82.5

注1) 平年値は平成11～令和元年の平均値
2) 甘味比＝糖度／酸度
3) 果肉歩合＝(果肉重／1果重)×100

11月の栽培管理

(1) 早生温州の収穫・予措

品質をそろえるため、まずは全体の約半数の果実（完全着色果のみ）を収穫する。さらにそこから10日後に、8分着色以上のものを収穫する。収穫時について果面の傷が腐敗の原因となることが多いので、必ず手袋をはめ、先の丸い採果鋏を用いる。採収容器は肩から掛ける袋か、かごを用いる。

収穫直後の果実は果皮の水分が多いので、コンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しのいい日陰に2～3日置く予措を行うと、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。

(2) 秋肥

早生温州では11月上旬、普通温州では11月中旬に、ともに窒素、りん酸、加里をそれぞれ10a当たり分量で6、4、6kg施用する。秋肥は適期に施用することが重要で、早すぎると着色の遅れや浮皮果が生じ、逆に遅すぎると低温のため吸収が悪くなる。乾燥の影響で樹勢が落ちた樹には、収穫後直ちに液肥を散布する。

(3) 病虫害の防除

青かび病・緑かび病の予防には収穫前日までにベフラン液剤25（2000倍液）※を散布する。

ミカンハダニやカイガラムシが多い園では、収穫後にマシン油乳剤を用いて防除する。樹勢の弱い樹や寒害を受けやすい園地では、寒い時期の散布を避ける。

※早生温州等、収穫の早い品種については農薬の使用から収穫までの日数に注意をする。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生育情報の問合せ先 》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>